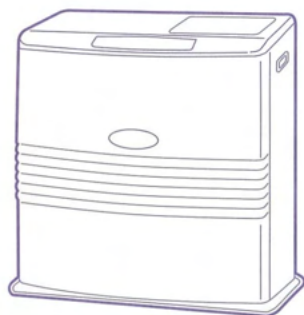


取扱説明書



形名

BH-3520KB
BH-3520GB
BH-4720KB
BH-4720GB

このたびは長府ブリーズヒーターをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。なお、取扱説明書は必ず保存し、おわかりにならないことや、不具合が生じたときにお役立てください。
- 保証書は販売店からお受け取りになる際に、必要事項が記入してあるか必ず確認してください。
- 取扱説明書を紛失された場合は、お買い求めの販売店、またはお近くの工場・営業所にご連絡ください。
- 必ず良質の灯油（JIS 1 号灯油）を使用してください。
- 製品改良により、本体・仕様等が説明書の内容と異なる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

も く じ

ページ

1 使用の前に

特に注意していただきたいこと	1
使用する場所	5
各部のなまえ	6
使用前の準備	8

2 運転のしかた

使用方法	13
安全装置	17
その他の装置	18

3 上手に使う

日常の点検・手入れ	18
-----------	----

4 故障かな？

故障・異常の見分け方と処置方法	22
定期点検	24
部品交換のしかた	24
保管	24
仕様	25
アフターサービス	26
据付け	27

5 工事編

特に注意していただきたいこと	28
開こん	32
据付け	33
給排気筒の取付け	36

特に注意していただきたいこと

ここに示した事項は危険の程度によって次のように分類されています。

 危険	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合
 警告	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が考えられる場合
 注意	取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が考えられる場合および物的損害の発生が考えられる場合

イラストにある 、、 は次の意味を表します。

	絶対に行ってはいけないことを表すマークです。
	必ず行っていただきたいことを表すマークです。
	注意していただきたいことを表すマークです。

危険

ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。



KEROSENE ONLY

警告

外れ危険

給排気筒（管・ホース）が正しく接続されているか、点検してください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。使用中に室内でにおいがするときは、排ガスが室内に漏れている可能性がありますので、使用を中止し、点検してください。



⚠ 警告

給排気筒トップ閉そく危険



確認

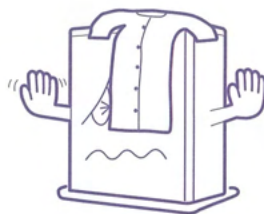


積雪の多いときには、給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないことを確認してください。ふさがれているときは除雪してください。運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

温風吹出口をふさがない



禁止



衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。火災の原因になります。

⚠ 注意

カーテン、可燃物近接禁止



禁止



カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。火災のおそれがあります。

スプレー缶厳禁



禁止

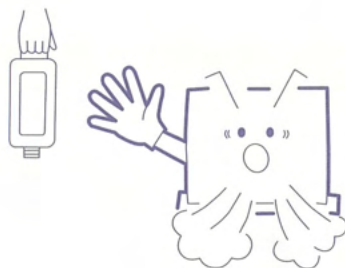


スプレー缶を温風の当たるところに放置しないでください。熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発し危険です。

給油時消火



禁止



給油は、必ず消火してから行ってください。火災のおそれがあります。

油漏れ確認 (給油タンク使用時)



確認



給油口金は確実に締めてください。給油口金を下にして、油漏れがないことを確認してください。口金を斜めに締めたりすると、簡単に口金を外れて、火災のおそれがあります。

⚠ 注意

温風に直接あたらない



禁止



温風に直接長時間あたらないでください。低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

高温部接触禁止



禁止



燃焼中や消火直後は、温風吹出口や給排気筒、排気管に手などを触れないように注意してください。やけどのおそれがあります。

分解修理の禁止（事故の原因）



禁止



故障、破損したら使用しないでください。不完全な修理や、改造は危険です。

改造使用の禁止



禁止

改造して使用しないでください。
また、本体や給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。
火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。

異常時使用禁止（火災の原因）



禁止



万一異常を感じたときには、使用しないでください。異常燃焼のおそれがあります。

電源コードを傷めない

（火災・故障の原因）



禁止



電源コードを踏んだり、はさんだりしないでください。また、束ねたまま使用しないでください。

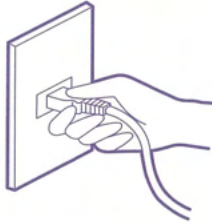
⚠注意

電源プラグを確実に差し込む

(火災・



確認



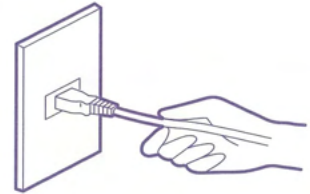
電源プラグはほこりが付着していないか確認し、がたつきのないよう根元まで確実に差し込んでください。

また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。

電源コードを引っ張らない



禁止

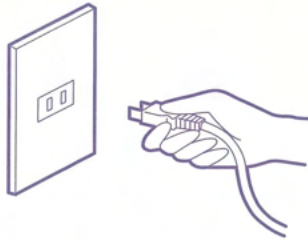


電源コードを引っ張って電源プラグを抜かないでください。断線して火災の原因になります。

電源プラグでの運転・停止禁止

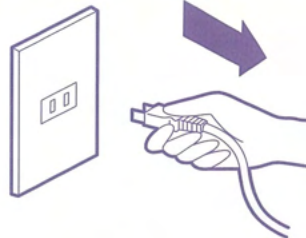


禁止



電源プラグの抜き差しによって機器の運転・停止をしないでください。火災や故障の原因になります。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

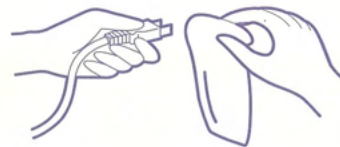


長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。火災や予想しない事故の原因になります。

電源プラグのお手入れを

(火災の原因)

ときどきは電源プラグを抜き、ほこりを取り除いてください。ほこりがたまると湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

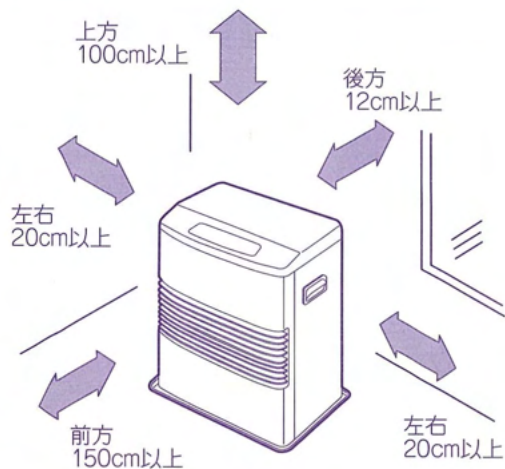


使用する場所

安全に使用するために

●周囲との距離

周囲の可燃物や障害物から、右図のような距離をとって使用してください。

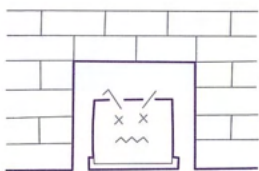


●次の場所では使用しないでください。

狭い場所



禁止



暖炉（マントルピース）や押し入れの中など狭い場所では使用しないでください。火災の原因になります。

特殊な場所



禁止



温室、飼育室、養鶏場、乾燥室などの特殊な場所では使用しないでください

1000m 以上の高地



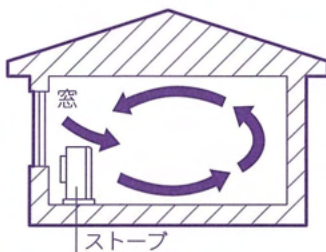
注意



標高 1000m 以上の高地で使用する場合は、空気の濃度がうすいので、酸素が不足し、不完全燃焼を起こす場合があります。販売店にご相談ください。

効果的に使用するために

外気に接する窓の下や壁側に設置すると効果的に暖房できます。



カーテンなど、燃えやすいものには、注意してください。

[良い例]

温風吹出口前方の空間が広くとれない場所では使用しないでください。



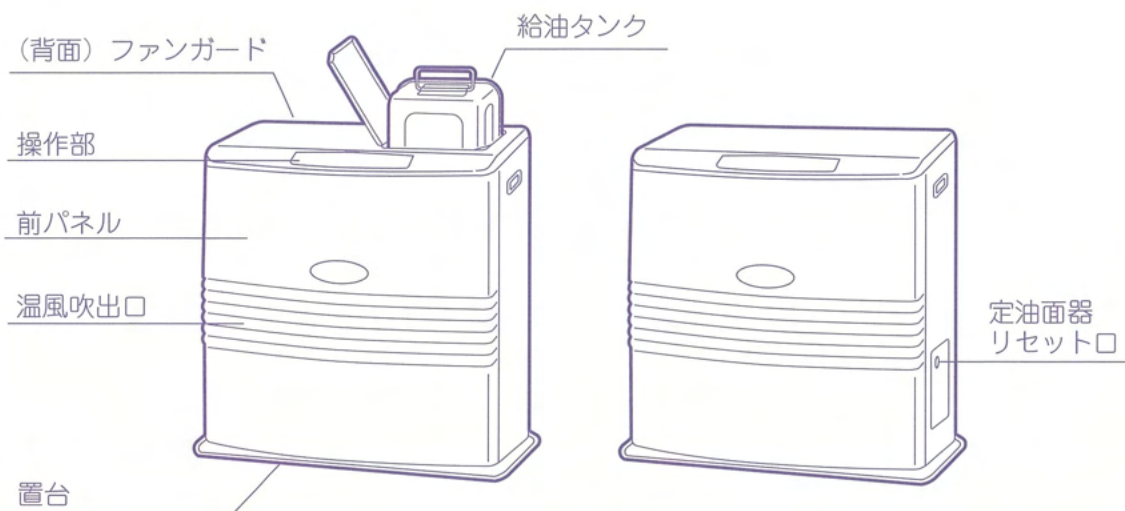
[悪い例]

各部のなまえ

●外観図

【BH-4720KB・3520KB】

【BH-4720GB・3520GB】

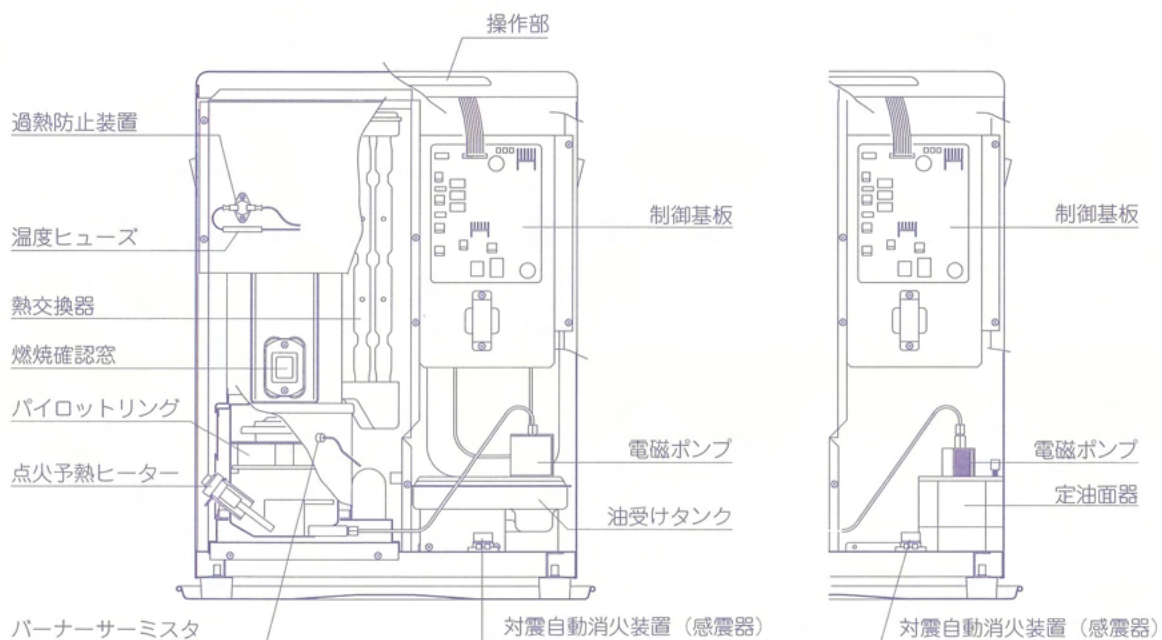


使用の前に

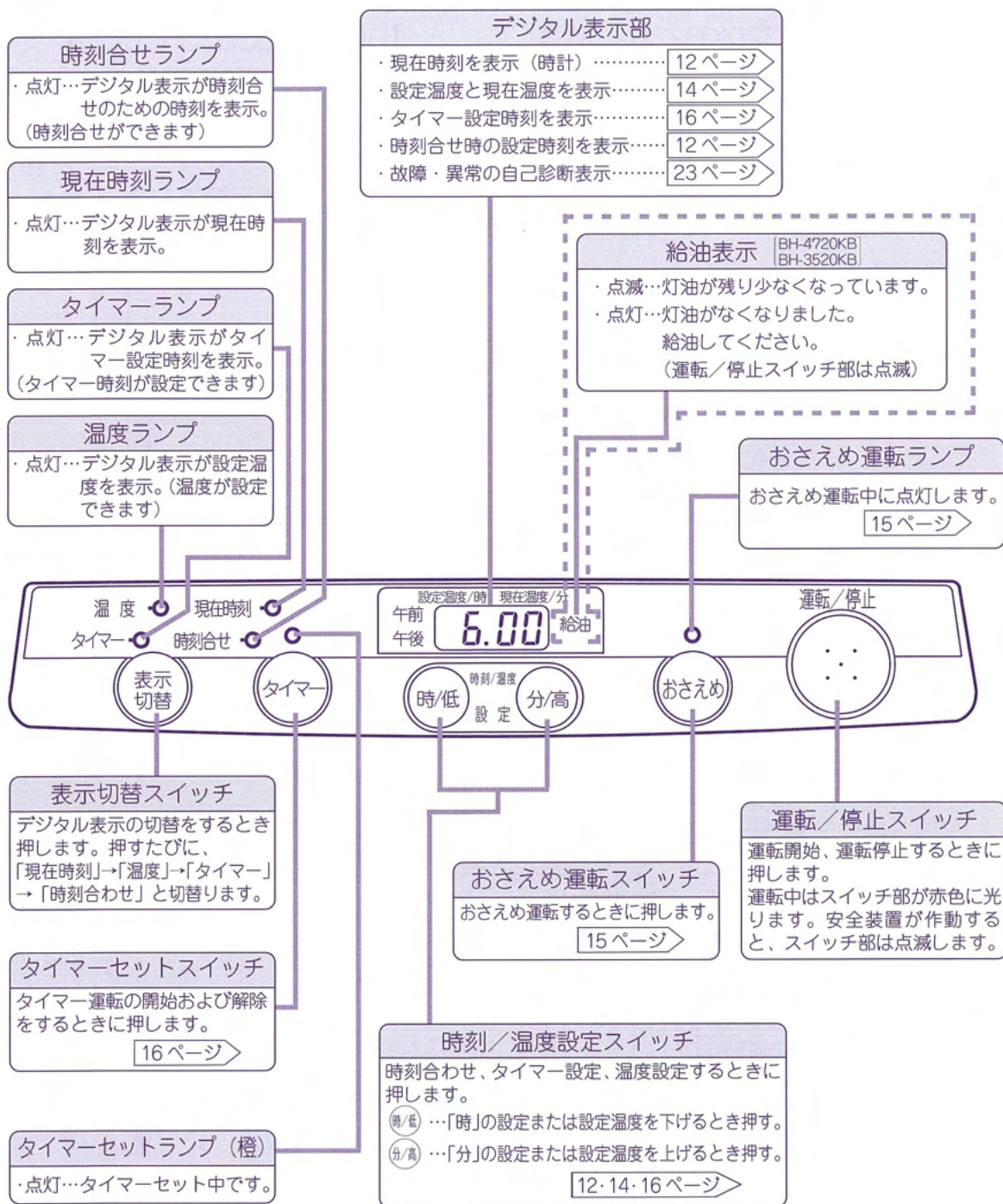
●構造図

【BH-4720KB・3520KB】

【BH-4720GB・3520GB】



●操作部



使用前の準備

燃料

使用の前に

1 燃料は必ず灯油を使用してください

⚠ 危険

ガソリン、ベンジン、シンナーやこれらのものが混入した灯油は火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。

灯油とガソリンの見分け方

指先につけて息をふきかけます
(火の気のないところでしてください)

○ 灯 油



× ガソリン



2 変質灯油・不純灯油は使用しないでください

3 変質灯油・不純灯油とは

変質灯油

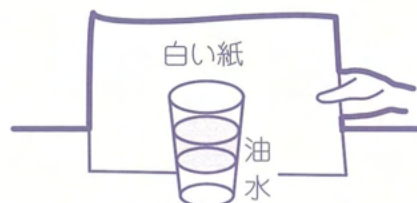
変質のひどいものは、黄色味をおびたり、すっぱい臭いがします。

- 古い灯油
(ひと夏持ち越した灯油)
- 長時間、日当たりのよい場所や、温度の高い場所に保管した灯油。
- 容器のふたがあけてあったり、白いポリ容器で保管した灯油。

不純灯油

- 灯油以外の油(ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など)がほんの少しでも混入した灯油。
- 水やゴミが混入した灯油。

変質灯油・不純灯油の見分け方
コップに水を入れ、その上に灯油を入れて後ろに白い紙をあてます。



(少しでも色のついている灯油は変質灯油・不純灯油です。)

給油

●給油タンク(

)使用時 [BH-4720KB・3520KB]

給油の際の手順と注意

⚠ 注意 給油は必ず消火を確かめてから行なってください。

- 1 ストープ上面のタンク室ふたを開いて給油タンクを取り出します。
- 2
 - 給油タンクの給油口を上にして給油口口金をはずし、市販の給油ポンプ等で給油します。付属の便利キャップを使用すると手を汚さずに口金をはずすことができます。
 - 給油タンクの油量計の油面が中央付近になったら給油を止めます。油をあふれさせないように注意してください。
 - 給油口口金は、確実に締めてください。
- 3 給油口口金を下にして油漏れがないことを確かめてからストーブに静かにセットしてください。
 - こぼれた灯油はよくふきとってください。



●外部タンク使用時 [BH-4720GB・3520GB]

給油の際の手順と注意

- 給油の際、水・ゴミなどが混入しないように注意してください。
- 給油口ふたは確実に締めてください。
- こぼれた灯油はよくふきとってください。
- 油タンクを空にしないように注意してください。空運転すると送油管内の空気抜きが必要となります。

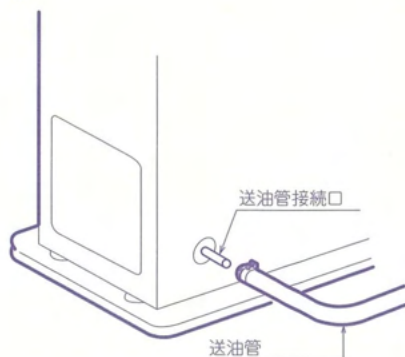


10 ページ

空気抜きの方法 [BH-4720GB・3520GB]

油切れをした時は送油管内に空気が入っていますので、次の順序で空気抜きをしてください。

- (1) 油タンクに油を入れる。
- (2) ストープ本体と送油管の接続部をはずし、送油管の先から油が連続して流れるようになるまで別の容器に油を出す。
- (3) 空気が抜け終わったらもとどおりに送油管を接続する。

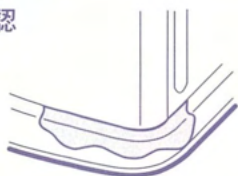


点火前の準備と確認

1 油漏れの確認

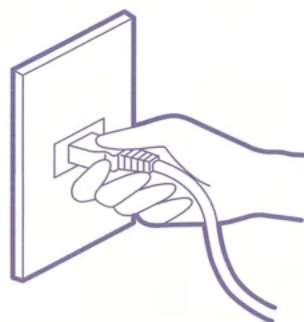


確認



給油タンクやストーブ本体から油漏れがないかどうか確認してください。

2 電源プラグの接続



電源プラグを一般家庭用100Vコンセントに確実に差しこんでください。

3 ストープの周囲



禁止



⚠ 注意

ストーブの上や周囲には、燃えやすいものを置かないでください。

4 給排気筒の点検



確認

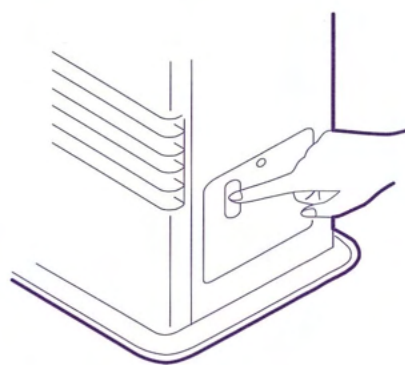


⚠ 警告

給排気筒が正しく接続されているか確認してください。

5 定油面器のセット [BH-4720GB・3520GB のみ]

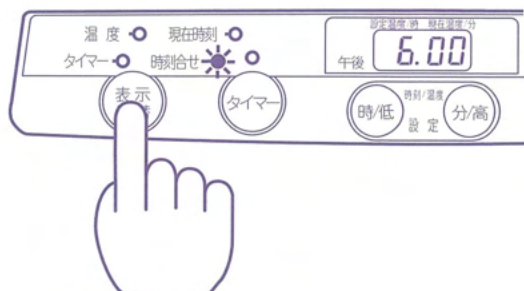
- 初めて使用するときには、定油面器のリセットボタン（本体右側面のリセット口の中の赤いボタン）を1～2回押してください。
- 据付時や長時間放置したあとで運転操作をしても点火しないときは、リセット口ふたをはずしリセットボタンの下にあるカラーを抜き取り、リセットボタンをいちばん下まで1～2回押してください。
- 長時間押し続けると定油面器から油があふれますので注意してください。（5秒以下）
- カラーは必ずもとどおりに取付けてください。



現在時刻の合わせかた

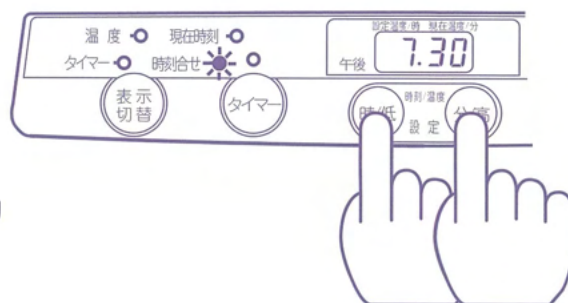
1 表示切替スイッチを押して時刻合せ表示にします

- 時刻合わせランプが点灯します。
- はじめて使用するときや、電源プラグが抜けていたときには「午後 6:00」を表示します。



2 時刻／温度設定スイッチ (時/低)、(分/高) を押して時刻を合わせます

- スイッチから手を離すと時計は自動的に作動しはじめます。



お知らせ

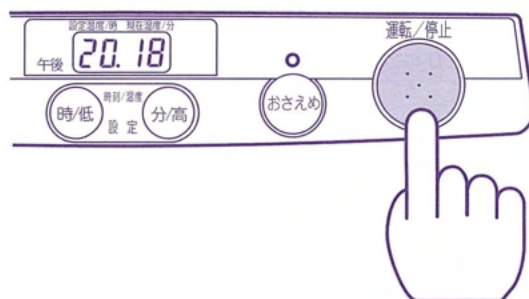
- 停電や電源プラグをコンセントから抜いたときには、時刻合わせをやりなおしてください。
- 時刻合わせ後、そのままにしておくと、約 10 秒後に自動的に現在時刻表示に切りかわります。

使用方法

運転開始（点火）

運転／停止スイッチを押
します

- スイッチ部が点灯します。



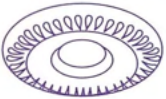
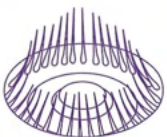
お知らせ

- 点火時や消火後、ストーブからキシミ音が出る場合がありますが、これらは熱膨張・熱収縮によるもので異常ではありません。
- 点火後数分間は、燃焼が安定するまで多少赤火が出る場合があります。

はじめて使用するとき

- 給油タンクをセットして5～6分後に点火してください。
- 一度の点火操作では点火しなかったり、異常燃焼することがあります。1～2回点火をやりなおしてください。
- 使いはじめのしばらくは防錆油などが焼けてにおいがすることがあります。

炎確認窓から炎の状態を確認してください。

正 常 燃 焼		⊗ 異 常 燃 焼	
	(多少の赤火は異常ではありません。)	飛火(リフト)燃焼	赤火燃焼
		 炎が炎口より離れて浮いている。	 長く赤い火が出る

《異常燃焼の原因と処置》

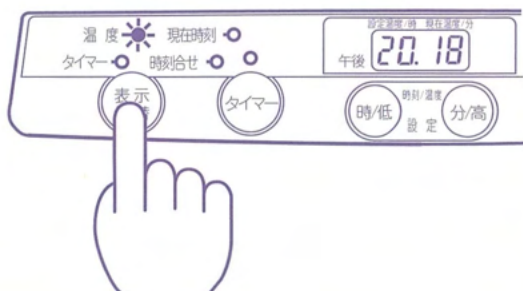
原 因	処 置
● 給排気筒のつまり	⇒ 掃除してください。
● 不良灯油の使用	⇒ 油タンク・油受けタンク・定油面器内の灯油を入れ替える。

もし飛火(リフト)燃焼のときや、赤火燃焼がなおらないときは、お買上げの販売店までご連絡ください。

室温の調節

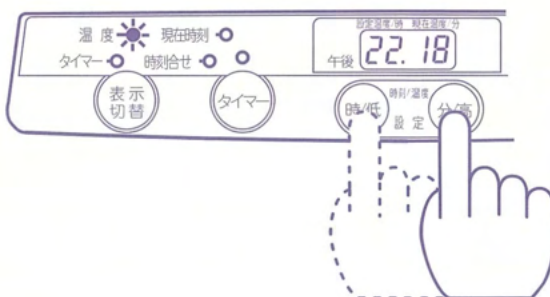
1 表示切替スイッチを押して温度表示にします

- 温度ランプが点灯します。
- 表示部に設定温度と現在温度（室温）を表示します。
- はじめて使用するときには20℃を表示します。



2 時刻／温度設定スイッチの「時／低」、「分／高」を押してお好みの温度に合わせます

- 「時／低」、「分／高」は押し続けると、温度が連続して変わります。
- 設定温度は12℃～30℃までと、Lo（室温に関係なく常に最低燃焼）とHi（室温に関係なく常に最高燃焼）です。



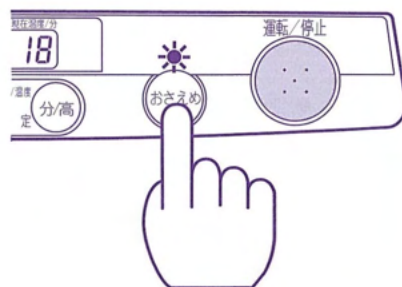
お知らせ

- 設定温度は一度セットすれば記憶されます。
- デジタル表示部の現在温度は室温のめやすですので、部屋の温度計とは一致しない場合があります。
- 点火してから約4分間は設定温度に関係なく強制燃焼します。
- 室内温度の感知部（ルームサーミスタ）は、ストーブのうしろにあります。この部分に直射日光やすきま風が当たったりすると、室温調節が正確に作動しないことがあります。

おさえめ運転の使用方法

秋口や春先などで、外気温度が比較的高い時期には設定温度を下げてても室温が下がらず、暑く感じる場合があります。このような場合にはおさえめ運転を行なうとストーブが消火し、室温が下がります。

- おさえめ運転スイッチが「入」のとき
設定温度より室温が高くなると消火します。室温が下がりにすぎると再び自動的に点火します。(設定温度が"Lo"の場合は消火しません)
- おさえめ運転スイッチが「切」のとき
設定温度より室温が高くなっても最小の火力で燃焼しつづけます。



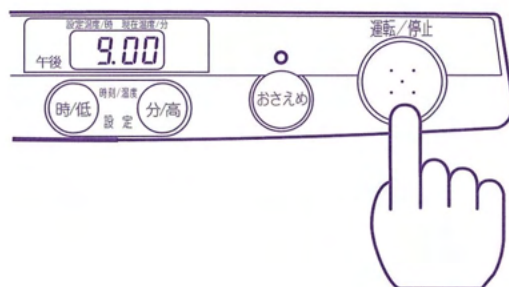
運転停止（消火）

運転／停止スイッチを押します

- スイッチ部が消灯します。
- 消火後約5分間は、ルームファンは運転します。

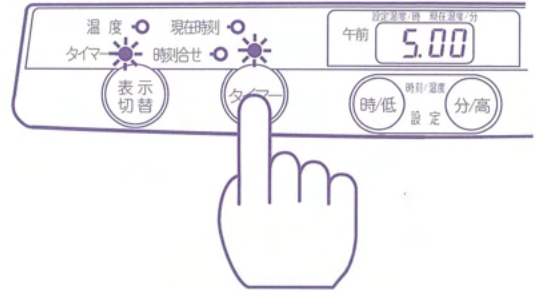
ご注意

- ルームファンが止まるまで、電源プラグを抜かないでください。
- 緊急時・点検時以外には電源プラグを抜いて消火したり、ストーブをゆすったりして消火しないでください。
- 外出されるときなどは、10分前ぐらいに消火して、ルームファンが停止することを確認してください。



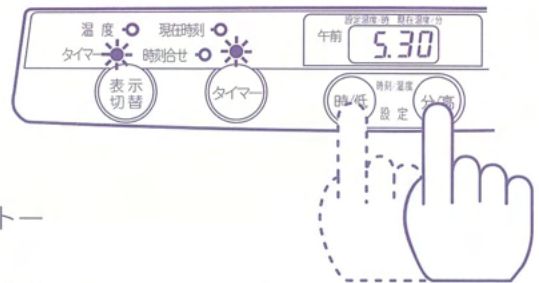
1 タイマーセットスイッチを押します

- タイマーランプとタイマーセットランプが点灯します。
- はじめてタイマー運転するときには「午前 5:00」を表示します。



2 時刻／温度設定スイッチの「時/低」、「分/高」を押して、起床する時刻に合わせます

- セットした時刻に部屋が暖まるようにストーブが自動的に運転開始します。
(セットした時刻より前に運転を開始します。)
- 次回からはタイマーセットスイッチを押すだけで同じ時刻でタイマー運転できます。
- タイマー運転を中止するときは、タイマーセットスイッチを押します。(タイマーセットランプが消灯します。)
- セットした時刻のままにしておくと、デジタル表示部の表示は、約 10 秒後に自動的に現在時刻表示になります。



お知らせ

- 停電や地震があったときは安全装置が働き、タイマー運転が解除されます。再度セットしておしてください。
- 電源プラグを抜いたときや、停電後再通電したときは、時刻合わせをやりなおしてください。

使用上の注意

⚠ **注意** ● 給排気筒は高温です。やけどに注意してください。

- ストープや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取付けないでください。ストープや給排気筒に熱交換器などを取付けると排ガスの水分が結露しやすくなり、結露水が凍結して給排気筒を塞ぎ、不完全燃焼や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。またストープの寿命を短くする原因にもなります。

安全装置

安全装置	はたらきと表示	装置が作動したあとは
対震自動 消火装置	地震や衝撃を受けたときに作動して自動消火します。 (運転／停止スイッチ部が点滅) 	運転／停止スイッチを押して停止させまわりに異常がないか確認後再運転してください。
過熱 防止装置	ファンガードがごみづまりしたりカーテンなどでふさがれたりして、ストープ内が異常に過熱したときに作動して自動消火します。 (運転／停止スイッチ部が点滅) 	運転／停止スイッチを押して停止させ過熱の原因を処置してから再運転してください。
燃焼 制御装置	点火しなかったり、炎が立ち消えしたときに作動して自動消火します。 (運転／停止スイッチ部が点滅)  	運転／停止スイッチを押して停止させ原因を処置してから再運転してください。
停電 安全装置	停電したり、電源プラグが抜けたときに作動して自動消火します。 (全てのランプが消灯)	再通電後は自動的に運転開始しませんので、運転／停止スイッチを押してください。

その他の装置

その他の装置	はたらきと表示	装置が作動したあとは
過電流 防止装置	電源回路に電流ヒューズがあり、万一過大電流が流れたときに切れて自動消火します。(全てのランプが消灯)	電源プラグを抜き原因を処置して電流ヒューズを交換してから再運転してください。
排気管 抜け検知 装置	排気管接続部のはずれや、排気管抜け検知用リード線がはずれたり断線したときに作動して自動消火します。 (運転/停止スイッチ部が点滅) 	運転/停止スイッチを押して停止させ原因を処置してから再運転してください。

日常の点検・手入れ

点検・手入れのときの注意

- 点検・手入れは必ず消火後ストーブが冷えてから、電源プラグを抜いて行なってください。
- 点検・手入れ後は取り付けを間違えないようにご注意ください。
- 電装品の分解・調整は絶対にしないでください。
(どうしても必要なときは、販売店に依頼してください。)

点検・手入れの必要項目、時期と方法

毎日

周囲の可燃物



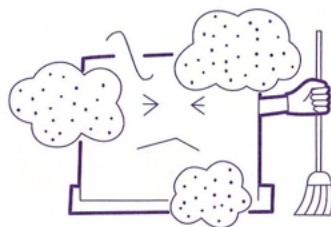
禁止



⚠ 注意

ストーブの周囲に、燃えやすいもの（紙やカーテン等）がないか常に注意してください。

ほこり

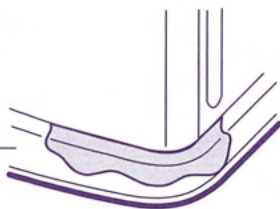


ストーブについたほこりやよごれはきれいに掃除してください。

油漏れ、油のたまり、油のにじみ

- 置台の上に油漏れ・油のたまり・油のにじみがないか、給油時は給油タンクに油漏れがないか、いつも注意してください。
- ときどき油タンク内の水抜きをしてください。

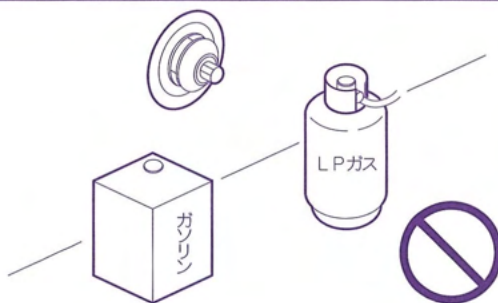
置台



確認

給排気筒トップの周囲

給排気筒トップの周囲に可燃物や危険物がないかいつも注意してください。



禁止

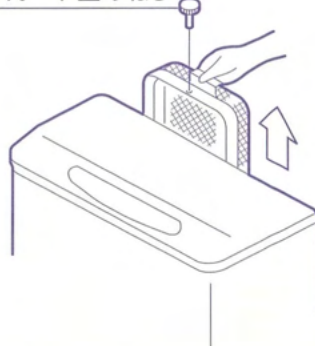
2 週間に 1 回以上

ファンガードの掃除

ストーブ後面のファンガードにはほこりがたまりますので掃除してください。

ファンが止まっていることを確認してファンガード止めねじをはずし、ファンガードを上を持ち上げてください。
(BH-4720KB・4720GB のみ)

ファンガード止めねじ



(図は BH-4720KB・4720GB)

3 か月に 1 回以上・シーズン初め

給排気筒の点検

⚠ 警告

給排気筒の接続部のはずれ、腐食、固定状態を点検してください。

給排気筒をはずして再度取付けるときには、排気筒内部のゴム製の O リング (JIS B2401 4 種 D [フッ素ゴム] P40) が変色したり、破損したりしていないか確認してください。変色したり破損したりしている場合は交換してください。



確認

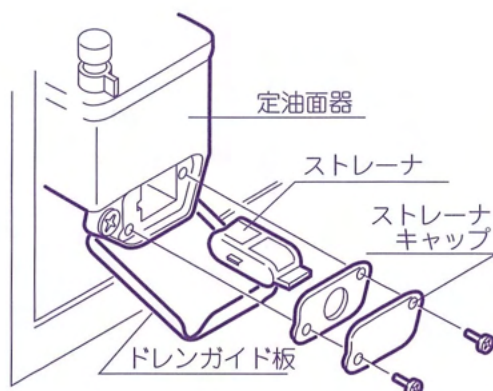


上手に
使ってね

3 か月に 1 回以上・シーズン初め

定油面器のストレーナの掃除 [BH-4720GB・3520GB]

- 1 油タンクの送油バルブを閉じてください。
- 2 本体右側面のリセット口ふたをはずし、内部の油がストーブ内にこぼれないようドレンガイド板（付属品）と容器をセットします。
- 3 ストレーナキャップを止めているねじ2本をはずし、油が抜けてからストレーナを抜き取ってください。
- 4 取り出したストレーナをきれいな灯油で洗ってください。
- 5 洗い終わったら元のように組みこみ、油漏れのないよう十分に締めつけてください。



送油管の点検 [BH-4720GB・3520GB]

送油管に油漏れ・油のにじみがないか点検してください。きれつ・ひび割れがある場合は、必ず交換してください。

油フィルタの掃除 [BH-4720KB・3520KB]

油フィルタにごみや水がたまっていないか点検し、汚れているときは取り出してきれいな灯油で洗ってください。

- ごみや水がたまると、油が通らなくなり「火が消える」、「点火しない」などの原因になります。



故障・異常の見分け方と処置方法

●故障・異常の早見表

次のことを処置されてもよくならないときには、お買上げの販売店にご相談ください。

現象 → 原因 ↓	運転／停止スイッチ部が点灯しない	運転／停止スイッチ部が点滅する	点火しない	使用中に消火する	炎が大きくなる・ススが出る	赤火になる・ススが出る	炎が飛ぶ	白煙がでてすぐとまる	処置方法 ↓	参照ページ
電源プラグがコンセントにさし込まれていない	●		●						電源プラグをコンセントにさし込む	10
対震自動消火装置が作動した (運転／停止スイッチ部点滅)		●	●	●					振動しない、水平な場所で使用する	17・23
油タンクに油が入っていない (給油表示点灯) [BH-4720KB・3520KB]		●	●	●					給油する	9
灯油に水が入っている		●	●	●	●		●		油タンク、定油面器の水抜きをする	21
灯油の質が悪い		●	●	●	●	●	●	●	良質の灯油を使用する	8
油フィルタにゴミがつまっている [BH-4720KB・3520KB]		●	●	●					油フィルタを掃除する	21
定油面器の内部にごみや水が入っている [BH-4720GB・3520GB]		●	●	●					定油面器、油ストレーナを掃除する	21
停電中である	●		●						停電復帰後点火しなおす	17
燃焼中に停電があった	●			●					運転／停止スイッチを押して、もう一度点火しなおす	17
給排気筒がつまっている		●		●		●			給排気筒を点検・掃除する	20
タイマーセット中に停電があった			●						通電後、タイマーセットし直す	16
過熱防止装置が作動した		●	●	●					使用場所・ファンガードを点検・掃除する。	17・23
排気管がはずれている		●	●	●					排気管を点検、接続を確実にする	18・23
定油面器がリセットされていない [BH-4720GB・3520GB]		●	●						定油面器のリセットをする	11

故障かな？

●サービスを依頼される前に

つぎのような場合は故障ではありません。サービスを依頼される前にもう一度確認してください。

現 象	説 明
初めて使用するとき、煙や臭いがでる。	耐熱塗料や防錆油やほこりが焼けるためです。 数時間の使用でなくなります。異常ではありません。
点火後、消火後にキシミ音がする。	加熱、冷却によってストーブ内が膨張、収縮する音です。 異常ではありません。
初めて運転するときやシーズン初めに点火しない。	定油面器の弁が閉じていたりストーブの油経路に空気がたまって油が正常に供給されていないためです。 定油面器のリセットボタンを押して運転操作をやり直してください。[BH-4720GB・3520GB]
給排気筒から湯気が出たり、水が落ちてくる。	排気ガス中に含まれる水蒸気によるものです。
燃焼中に炎が赤く輝く。	空気中に塩分や水分やちりが多い場合に、炎が赤く輝くことがあります。

●自己診断機能

デジタル表示部に自己診断表示が出たときは、次の処置をしてください。

表 示	原 因	処 置 方 法
R0	・ 制御基盤異常	・ 運転/停止スイッチをいったん「切」にして入れなおしてください。
R1	・ 本体が傾いている ・ 本体が振動を受けた	・ 本体を水平にする
R2 R3	・ 不着火 ・ 断火	・ 運転/停止スイッチを入れなおす ・ 給油する
R5	・ 点火予熱ヒータ異常	・ お買い求めの販売店に連絡する
R8	・ パーナーサーミスタ異常	・ お買い求めの販売店に連絡する
R9	・ 室温が異常上昇	・ 換気して室温が下がるのを待つ
RH	・ 過熱防止装置作動	・ ファンガードを掃除する ・ 温風吹出口をふさがない
RE	・ 排気管抜け検知	・ お買い求めの販売店に連絡する
RA	・ 電源周波数異常	・ 電源プラグがきちんと入っているか確認する

定期点検

- 長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要となります。通常1年に1回程度はお買い求めの販売店で点検を受けることをお奨めします。(定期点検は有料です)

部品交換のしかた

部品交換が必要になったときは、お買い求めの販売店に依頼してください。

- 部品は必ず長府純正部品を使用してください。
- 故障したままで使用しないでください。
- 不完全な修理は危険です。故障して修理が必要なときは、お買い求めの販売店に依頼してください。
- 給排気筒のOリングは右のものを使用してください。

種類	4種D (フッ素ゴム) (JIS B 2401)
呼び	P40

保管

シーズン終了後や長期間使用しない場合は、次の要領で手入れを行い保管してください。

- 電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 油タンク、定油面器内の油を全部抜いて、乾燥させてください。
- 前パネルをはずして掃除し、本体内部のほこりも掃除してください。
掃除が終わりましたら、元通りに組立ててください。
- ストーブを据付けたままで保管する場合は、ほこりが入らないようにカバーなどをして保管してください。

故障
かな
？

型 名		BH-3520KB	BH-3520GB	BH-4720KB	BH-4720GB
型 式 の 呼 び		BH-35 (BH-33)		BH-47 (BH-43)	
種 類		ポット式、強制給排気形、強制対流形			
点 火 方 法		電気点火			
使 用 燃 料		灯油 (JIS1号灯油)			
燃 料 消 費 量	最 大	0.41 ℓ /h		0.53 ℓ /h	
	最 小	0.18 ℓ /h			
熱 効 率	最 大	89%		92%	
	最 小	80%			
暖 房 出 力	最 大	3.49kW (3,000kcal/h)		4.65kW (4,000kcal/h)	
	最 小	1.37kW (1,180kcal/h)			
油 タ ン ク 容 量		4.5 ℓ	なし (別置タンク式)	4.5 ℓ	なし (別置タンク式)
標準適量 〔暖房の めやす〕	木 造	9畳 (15m ²) まで		12畳 (20m ²) まで	
	コンクリート	12畳 (20m ²) まで		16畳 (27m ²) まで	
外形寸法 (置台含む)		高さ 532mm, 幅 494mm, 奥行 345mm		高さ 622mm, 幅 494mm, 奥行 345mm	
質 量		20kg	18kg	22kg	20kg
電源電圧及び周波数		100V 50/60Hz			
定格消費 電 力	最大 (点火時)	875/875W		875/875W	
	燃 焼 時	47/43W		54/49W	
給 排 気 筒 呼 び 径		D39			
給排気筒壁貫通部孔径		φ 85mm			
排 気 温 度		260℃以下			
電 流 ヒ ュ ー ズ		10A			
温 度 ヒ ュ ー ズ		154℃			
安 全 装 置		対震自動消火装置、過熱防止装置、燃焼制御装置、停電安全装置			
そ の 他 の 装 置		排気管抜け検知装置、過電流防止装置			
付 属 品		32 ページをご覧ください。			

※標準適室は、社団法人日本ガス石油機器工業会の算定基準により温暖地 (室内外の温度差が 15℃) の場合の目安を示したものです。

アフターサービス

サービスを依頼されるときは

サービスを依頼される前に22・23ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見て、今一度確認してください。不具合があるときはご自分で修理せず、お買い求めの販売店にご連絡ください。

- アフターサービスをお申し付けいただくときは、次のことをお知らせください。

1. 品名……長府ブリーズヒーター
2. 形名……BH-4720KB・BH-4720GB・BH-3520KB・BH-3520GB
3. お買い上げ年月日
4. 故障の状況……できるだけ詳しく
5. ご住所、お名前、電話番号
6. 訪問ご希望日

転居されるときは

- 転居される場合はお買い求めの販売店にご相談ください。
- 移設は販売店に依頼し、お客様自身で行わないでください。

保証について

この機器には「保証書」がついています。

- 正常な使用状態において故障した場合には、保証書の規定によりお買い上げ日より1年間はお買い求めの販売店が無料で修理いたします。
- 保証期間経過後の修理についても、お買い求めの販売店にご相談ください。
- 家庭用の暖房以外の特殊な使用方法でクレーム発生につきましては、保証の対象外となります。

補修用性能部品の最低保有期間

石油温風暖房機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後7年です。

- 性能部品とはその製品の性能を維持するために必要な部品です。

故障かな？

●据付場所の選定及び標準据付け例

据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準などの法令の基準があります。工事編の「特に注意していただきたいこと」をお読みになり、販売店のかたとよくご相談してください。標準据付け例は工事編を参照してください。

●据付け後の確認

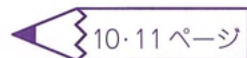
据付けが завершиましたら、もう一度工事編の「特に注意していただきたいこと」をお読みになり、記載されているとおり据付けられているかどうか確認してください。

試運転

- 試運転は販売店または工事業者とご一緒に必ず行ってください。

●運転準備

- (1)油タンクに給油します。
- (2)送油管内の空気抜きをし、定油面器のセットをします。
[BH-4720GB・3520GB]
- (3)機器の周囲及び送油管接合部に油漏れがないか確認します。
- (4)電源プラグをコンセントに差しこみます。



●運転開始（点火）

- (1)運転／停止スイッチを押します。
- (2)運転ランプが点灯し、約1分後に燃焼を始め燃焼後約4分で温風が出ます。



- 初めてストーブを運転させるときに、ストーブの各部から防錆油やほこりなどが焼けて煙や臭いが出ることがあります。しばらく換気しながらご使用ください。

●運転停止（消火）

- (1)運転／停止スイッチを押します。
- (2)運転ランプが消灯し、消火します。温風は消火後約5分で停止します。

- ここに示した注意事項は、危害、災害の程度によって次のように分類されます。いずれも安全に関する重大な内容を示していますので、必ず守ってください。

⚠ 警告	作業を誤った場合に設置工事者、または設置後の不具合によって使用者が死亡又は重傷を負う可能性が考えられる場合を示しています。
⚠ 注意	作業を誤った場合に設置工事者、または設置後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性が考えられる場合、または物的損害の発生が考えられる場合を示しています。

- 絵表示には次のような意味があります。

	してはいけないこと（禁止）		注意すること
	必ず行うこと		アースをすること

⚠ 警告

工事にあたって

- 据付けや移動は、販売店に依頼してください。お客様ご自身で据付けをされ、不備があると感電や火災の原因になります。
- 火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守ってください。
- 据付工事は、本書に従って確実に行ってください。据付けに不備があると油漏れ、感電、火災の原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備技術基準」、「内線規定」に従って施工してください。
- 据付工事部品は必ず付属部品及び指定部品を使用してください。



屋内排気（給排気）禁止

必ず屋外に排気してください。
排ガスが室内に排出され、火災や予想しない事故の原因になります。



床下排気（給排気）禁止

必ず屋外に排気してください。
排ガスが室内に充満して危険です。



⚠ 警告

はずれ危険

給排気筒を確実に接続し、しっかりと固定してください。風、振動、衝撃で外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



確認

給排気トップ閉そく危険

積雪が多いときに給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。また、板などによる「雪囲い」は、給排気の妨げになるのでおやめください。運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



確認

⚠ 注意

次の場所には据付けない

火災や予期しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物を載せた棚などの下
- 不燃性ガスの発生する場所、または溜まる場所
- 付近に燃えやすい物がある場所
- 階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- 温室・飼育室など人のいない場所



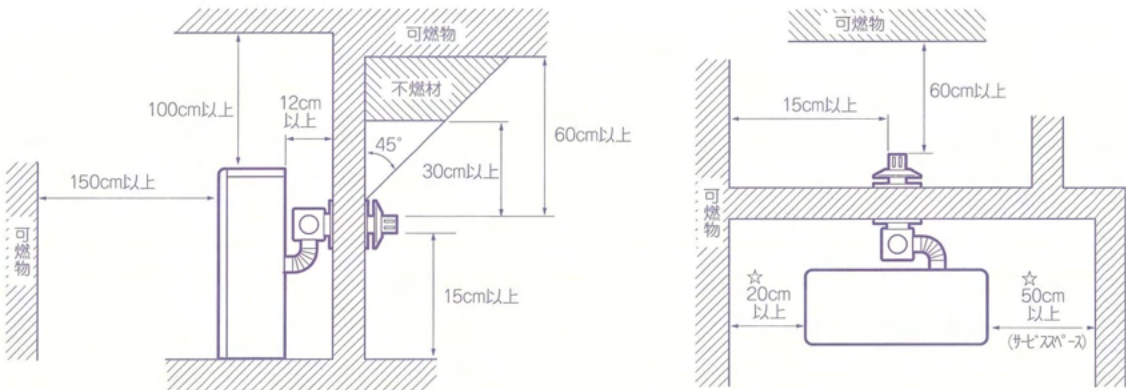
禁止

⚠️ 注意

可燃物との距離は離す

- 機器から周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。周囲を防熱板、不燃材構造にした場合は緩和されますので、各地域の火災予防条例を参照してください。
☆印の距離はサービススペースとして必要な距離です。

標準据付け図例



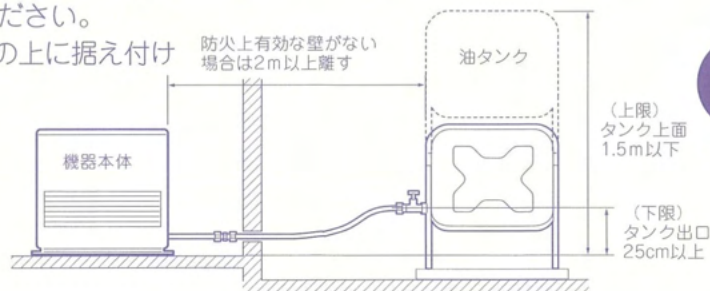
家屋貫通部の注意

- 排気延長の場合などで排気管が可燃性壁などを貫通する場合は、必ずめがね石かめがね鉄板を使用して断熱してください。
- 地域により異なる場合がありますので、火災予防条例を参照してください。



油タンクとの距離を離す [別置タンク設置の場合]

- 油タンクは機器より2m以上離すか、防火上有効な遮へいを設けてください。
- 不燃材でできた水平な基礎の上に据え付けてください。



⚠️ 注意

ゴム製送油管の屋外使用禁止

屋外では必ず銅管等を使用し、ゴム製送油管は屋外では絶対に使用しないでください。ひび割れを生じて油漏れの原因になります。



禁止

給排気筒の点検

給排気筒の取付が終わったら、もう一度点検してください。つぎのような取り付けは危険であったり、不完全燃焼を起こすおそれがありますので、必ず修正してください。



励行

可燃物近接禁止 禁止	接続のゆるみ点検 ゆるんでいませんが 励行	下り勾配のこと 励行 屋内 屋外
3m3 曲がり以下 励行 曲がり3カ所以下 延長3m以下	給排気筒トップと開口部との距離を離す 励行 60cm以上	危険物近接禁止 禁止

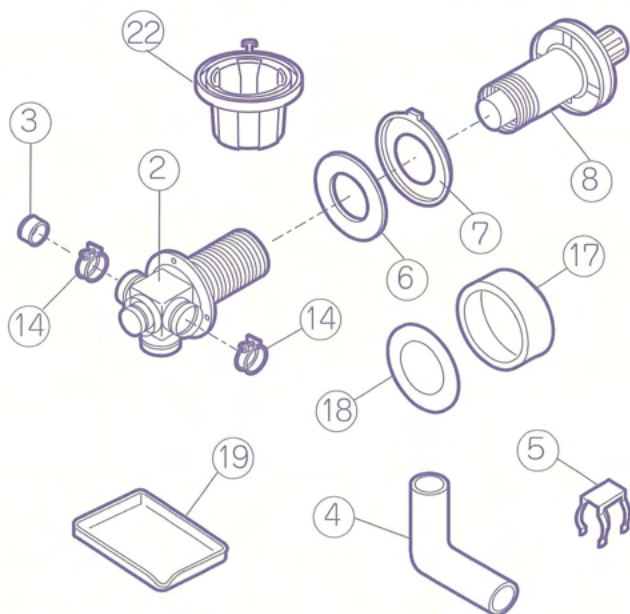
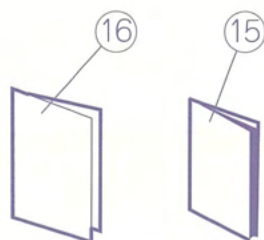
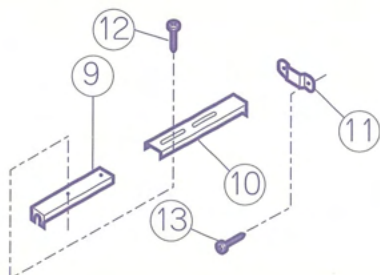
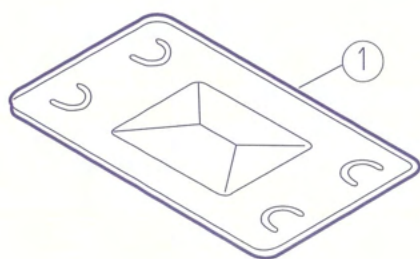
●開こん

- ダンボール箱からストーブを取り出しましたら、パッキン・テープ等の包装を取除いてください。

●付属部品

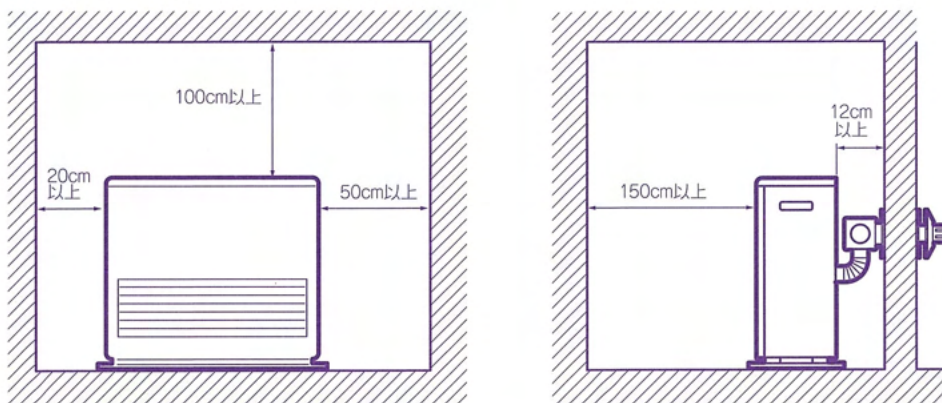
- 付属部品は次のとおりです。こん包材料と一緒に捨てないように注意してください。

NO.	部 品 名	個 数	
		BH-4720KB BH-3520KB	BH-4720GB BH-3520GB
1	置 台	1	
2	室 内 側 給 排 気 筒	1	
3	給 気 口 キャップ	1	
4	断 熱 カ バ ー	1	
5	ス ト ッ パ ー リ ン グ	1	
6	室外側フランジパッキン	1	
7	傾 斜 フ ラ ン ジ	1	
8	室外側給排気筒（トップ）	1	
9	本体固定金具（A）	2	
10	本体固定金具（B）	2	
11	本体固定金具（C）	2	
12	小ねじ（4 mm）	4	
13	タ ッ ピ ン ネ ジ	7	
14	給 気 口 バ ン ド	2	
15	取扱説明書（本紙）	1	
16	型 紙	1	
17	薄壁用アダプター	1	
18	薄壁用アダプターパッキン	1	
19	ドレンガイド板	—	1
20	送油管（口金付）	—	1
21	ホースバンド（送油管用）	—	1
22	便 利 キ ャ ッ プ	1	—



●据付け場所の選定

- 機器本体の据付場所は、暖房効果のよい丈夫で水平な床面で、給排気筒を屋外に出すのに適した位置をお選びください。
- 凹凸があったり、人が通るとゆれるような場所には設置しないでください。
- 機器本体と周囲の可燃物との距離は下図を参照してください。なお、各地域の火災予防条例によって距離が異なる場合がありますので、その地域の火災予防条例に従ってください。



- 機器本体の周囲に障害物・可燃物などが無い場所に設置してください。
特にカーテン・障子などは本体後部にふれないようにしてください。
- この機器は給排気部から燃焼に必要な空気を屋外から取入れ、排気ガスを屋外に排出しますので、給排気筒の取り出し位置をあらかじめ考慮しておいてください。
- 給排気筒は雪や風の吹きだまりになるような場所や落雪が当たるところには取付けないでください。
寒冷地では特に積雪、ツララなどにより、給排気筒の先端が覆われない場所に設置してください。
- 電源コンセントは歩くときに足で電源コードをひっかけないような位置を選んでください。
- 不安定な物をのせた棚などの下には設置しないでください。物が落ちると危険です。
- マントルピースなど機器本体が囲まれる場所には設置しないでください。
- 本体を充分支えられ、振動の出ない強度のある場所に設置してください。
- テレビ、ラジオ、無線機、蛍光灯から1m以上間隔がつけられる場所に設置してください。
- 工業用マシンなどの高周波ノイズを発生する機器のない場所に設置してください。
- 吹き出した風が他の燃焼器具などに影響しない場所に設置してください。

●電源について

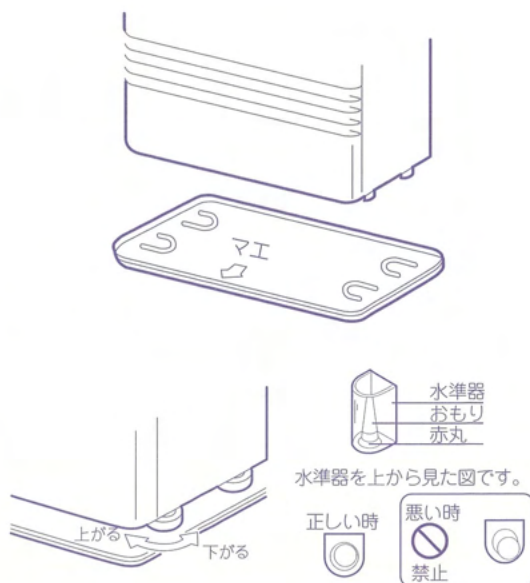
- 電源は単相 100V です。接続する前に必ずテスターで確認してください。
- 電源コードを切断して延長することはしないでください。

●据付け方法

1. 本体の据付け

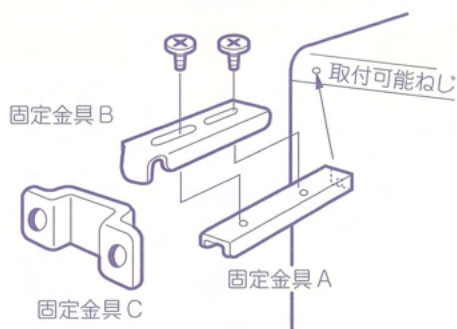
- 据付けの前に「給排気筒の取付け」に従って、壁に給排気筒用の穴をあけてください。
- 本体を丈夫で水平な床面に設置してください。

- (1) 置台(刻印マエを手前にして)は必ず使用し、置台の上にストーブを置いてください。その際ストーブの調節脚が、置台の調節脚位置にくるようにしてください。
- (2) ストーブ背面についている水準器で水平を確認してください。
- (3) 水平の調節は、本体の調節脚で行ってください。

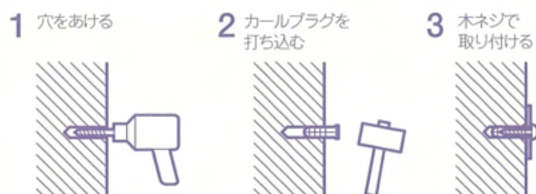


2. 本体固定金具の取付け

- (1) 固定金具Bの長円穴部分を固定金具Aのねじ穴に小ねじで仮止めしてください。
- (2) 仮止めした固定金具A・Bをストーブ背面の固定金具取付可能ねじ(5箇所)のいずれかを利用しストーブに取付けてください。
- (3) ストーブ取付用の型紙により、壁面に固定金具Cの取付位置をドライバーなどで位置決めしてください。
- (4) 固定金具Cを壁面に木ねじで取付けてください。
- (5) 給排気筒の取付けが終わりましたら、固定金具A・Bをストーブ背面の固定金具取付穴(可能ねじ)と固定金具Cに差し込みストーブと壁とを固定してください。



- 木ねじで固定できないような壁(コンクリート、石膏ボード、しっくい壁など)に本体固定金具を固定する場合は、市販のカールプラグや中空壁用プラグを壁に打ち込むか、壁にそえ木をして固定してください。



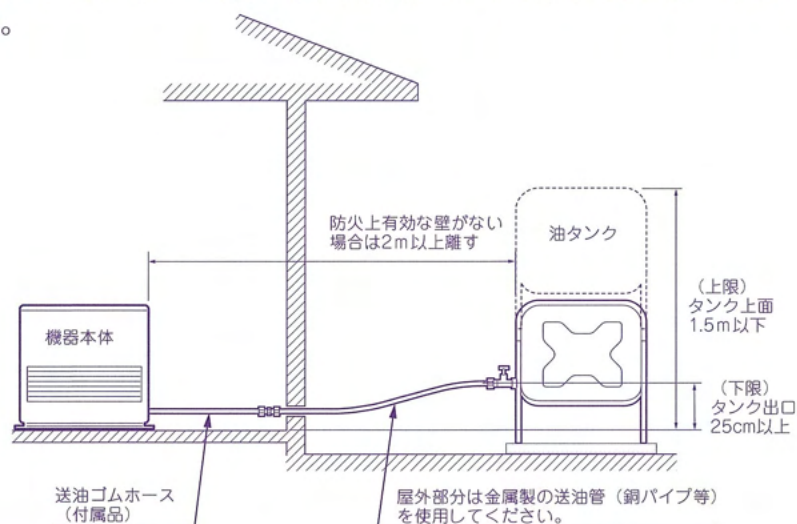
●油タンクの据付け〔外部タンク使用時〕

1. 据付け場所の選定

- 油タンクは、防火上有効なしゃへいがない場合、ストーブから2m以上離してください。
- 油タンクは、35℃以上の高温、火気、雨水、ゴミ、直射日光などを避けた場所に設置してください。

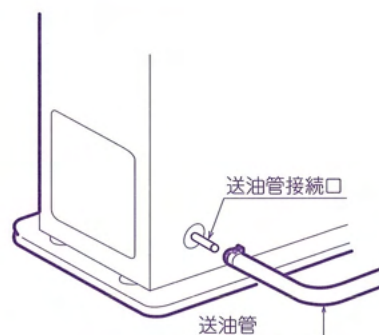
2. 油タンクの据付け

- 油タンクは不燃材料の上に据付け、簡単に動いたり、倒れたりすることのないようにしてください。なお、たたみ・じゅうたんなどの上には据付けないでください。
- 油タンクの据付けについて各地の火災予防条例でこれと異なる定めがある場合は、それに従ってください。



3. 送油管の取付け

- 送油管を接続してください。
送油管をストーブの送油管接続口にしっかりと差し込みホースバンドで固定してください。
- 送油管が途中で盛り上がったり、もつれたりしていますと、その部分に空気がたまって油が流れなくなりますので注意してください。



注 意

- 屋外の送油管は必ず銅管を使用してください。

確 認

- 設置場所は安全な位置で転倒や落下のおそれはありませんか。
- 直射日光や雨水にあたることはありませんか。
- 給油・送油バルブの開閉操作が容易に行えますか。
- 送油管は確実に取り付けられていますか。また足などに引っかかりやすくなっていませんか。

給排気筒の取付け

給排気筒は燃焼に必要な空気を屋外から取り入れ、燃焼排ガスを屋外に排出する重要な役割をするものです。誤った取付けは燃焼不良や火災事故の原因となりますので、次のことに注意して取付けてください。

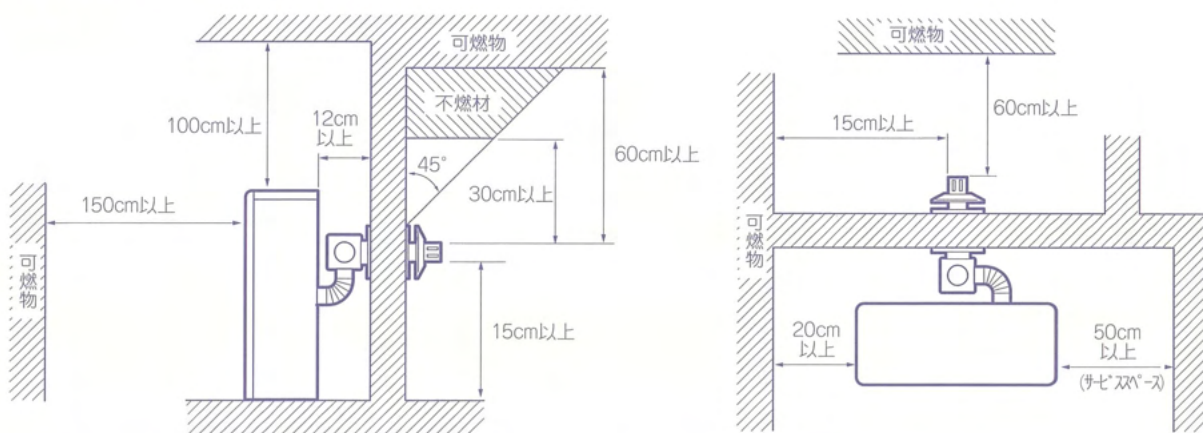
●使用する給排気筒

- 給排気筒は必ず給排気筒セット（付属品）および当社指定の延長部品を使用してください。
- 給排気筒が貫通する壁の厚さは、付属の給排気筒で 12～21cm です。
- 壁の厚さが 8～12cm の場合は、付属の薄型用アダプタを使用して取り付けることができます。

●給排気筒の取出し場所の選定

- 人通りの多いところや、雪や風の吹きだまりになるような場所、ツララの真下になるようなところには取り付けないでください。
- 特に季節風の強い地方では、風が直接当たらない場所に給排気筒を取付けてください。
- 給排気筒は外気に通じる壁に取り付けてください。
- 給排気筒先端の周辺に引火性の危険物（ガソリン・灯油・プロパンガス）などを置かないでください。
- 給排気筒先端の周辺に積雪や樹木などの障害物がないようにしてください。
- 給排気筒先端が通路や隣家の窓先など迷惑のかかるところに出ないようにしてください。
- 給排気筒が貫通する壁は、壁の内側にある電気配線、ガス、水道管等にあたるおそれのない場所を選んでください。

●給排気筒の取付図



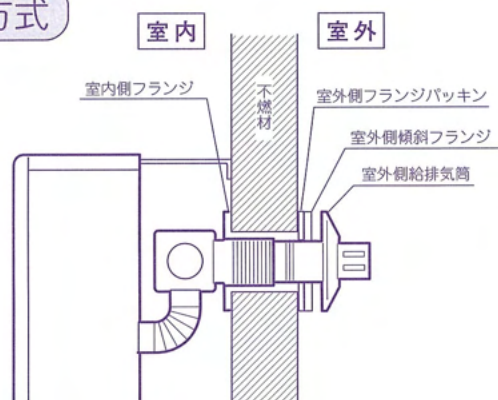
- 給排気筒と上方可燃物は 60cm 以上（不燃物の場合は 30cm 以上）離してください。
- 給排気筒と側方障害物は 15cm 以上離してください。
- 前方に塀や建物がある場合は、給排気筒と前方障害物は 30cm 以上離し、かつ上方、および両側方に気流を阻止する障害物がないようにしてください。
- 給排気筒下面は地面などから 15cm 以上離してください。

給排気筒の取付け

●給排気筒の工事方法

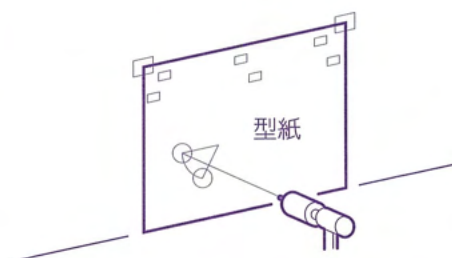
標準給排気方式

標準給排気方式は本体付属の「標準給排気筒セット」を使用した取付方法です。標準給排気方式以外にも部屋の条件によって、排気管を延長したりして取り付けることができます。



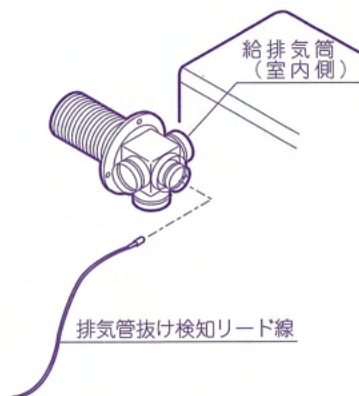
1. 壁の穴あけ

- ① ストープを取り付ける位置の壁に、付属の型紙をテープなどで貼り、給排気筒取り付け位置を決めてください。
- ② 決めた位置に直径8.5cmの穴をあけてください。



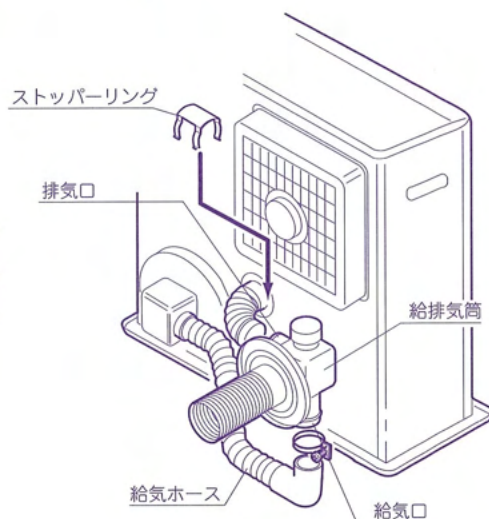
2. 室内側給排気筒の取り付け

- ① 排気口キャップ止めねじに排気管抜け検知リード線が固定されていることを確認します。
- ② ストープ背面にある排気エルボに断熱カバーを入れます。
- ③ 排気エルボに給排気筒の排気口をしっかりと差しこみ、接続部にストッパーリングをはめて、断熱カバーをストッパーリングまでかぶせます。
- ④ ストープの給気ホースの接続口を給排気筒の給気口に差しこみ、給気口バンドで固定します。



注意

給排気筒の給気・排気口をまちがえて接続しますと、異常燃焼の原因となったり、壁貫通部の温度が異常上昇し危険です。給排気筒の接続にはとくに注意してください。

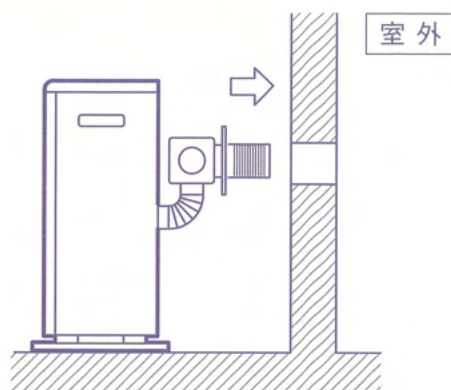


3. ストープの取付け

ストーブを移動し、給排気筒を室内側から壁の穴に通します。

注 意

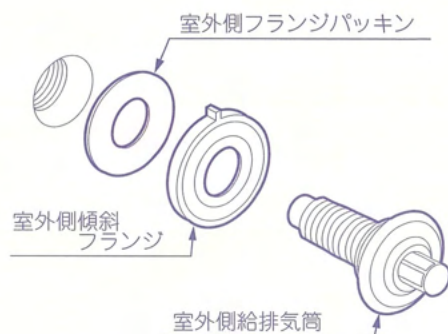
- 壁にメタルラス張り・ワイヤラス張り・金属板張りをしてあるところに給排気筒を貫通させる時は、それらの金属部に接しないように電氣的絶縁をしてください。



4. 室外給排気筒の取付け

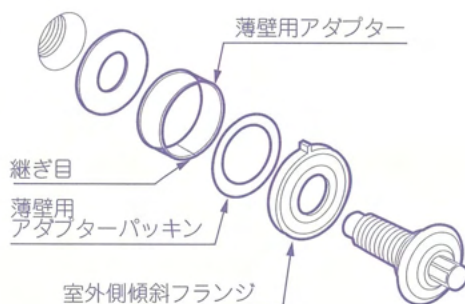
………室外で行ないます

- 付属の室外側フランジパッキン、室外側傾斜フランジを室外側給排気筒に通し、室外側給排気筒を壁穴に差しこみ、室内側給排気筒にねじこみます。
- 傾斜フランジの刻印「室外側上」が上になるように取り付けてください。



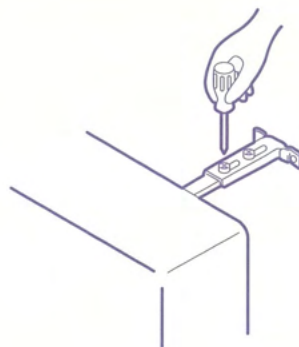
5. 壁厚が薄いとき（壁厚 8 ～ 12cm）

- 付属の薄壁用アダプターと薄壁用アダプターパッキンを右図のように使用して取り付けてください。
- 薄壁用アダプターパッキンを室外側傾斜フランジの壁面側に貼ってください。
- 薄壁用アダプターの継ぎ目を下向きにしてください。



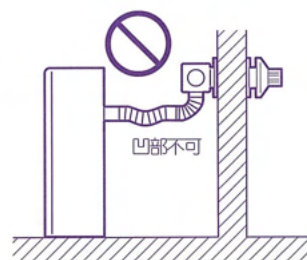
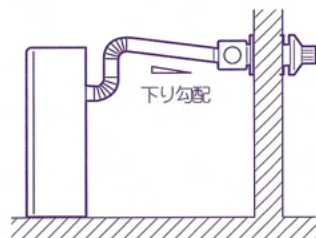
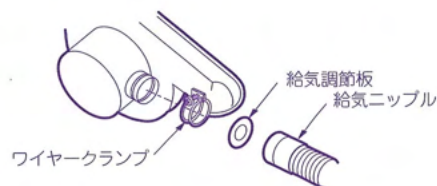
6. ストープ本体の固定

- 付属の本体固定金具を用いて、ストーブ本体を壁面に固定してください。（34 ページ参照）



●延長工事

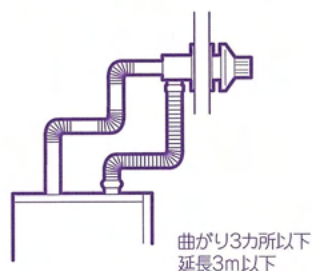
- 給排気筒の長さは3m3曲がりまでにしてください。これ以上になりますと、燃焼に必要な空気が不足し、不完全燃焼の原因となります。
- 次の場合は、ストーブの給気ニップル内に組み込まれている給気調節板をとりはずしてください。
 - 標高 1000m以下で、2m2曲がり以上の給排気延長を行う場合。
 - 標高 1000m～1300m で給排気延長を行う場合。
- 給排気筒は屋外に向って上り勾配にしないでください。上り勾配で設置すると雨水や燃焼生成水が逆流して機器内に流れ込み、本体をいためることがあります。
- 排気筒の途中が凹にならないようにしてください。燃焼生成水が凹部にたまり、排気が悪くなり不完全燃焼を起こします。
- 排気筒は断熱カバーで必ず被覆してください。
- 排気筒にはカーテンなどの燃えやすいものが触れないようにしてください。



●変則工事の禁止

次のような工事は安全性および性能面に支障をきたすため、絶対に行わないでください。

- 給排気筒をつけない工事。
- 給排気筒を室内に出す工事。
- 給排気筒を屋外に向って上向きにつける工事。(雨水が入る)
- 給排気筒（給気管・排気管）を床下や屋根裏などに配管する工事。



●延長給排気工事の限界

- 延長限界は3m3曲がりまでです。
長すぎたり、曲がりが多いと異常燃焼することがあります。

●集合煙突利用の禁止

- 給排気筒を集合煙突には絶対に接続しないでください。

●積雪地域での取り付けの注意

- 積雪地域では給排気筒が雪で埋もれないようにしてください。



おぼえがき

お買い上げ日	年 月 日
販売店名	電話番号

・記入しておくで修理などの依頼の時に便利です

愛情点検 	長年ご使用の石油暖房機の点検を！	
	こ ん な 症 状 は あ り ま せ ん か ？ ●油漏れがある。 ●煙が出たり、強い臭いがする。 ●運転中にこげくさい臭いや、異常な音や振動がする。 ●その他の異常や故障がある。	お 願 い このような症状の場合は使用を中止し、故障や事故防止のため技術者による保守点検を受けていただくことをお奨めします。 詳しくは販売店にご相談ください。

住宅設備機器総合メーカー



●本社 ————— 山口県下関市長府扇町2-1

●お問い合わせ先 —————

本 社 ・ 営 業 部	〒752-8555	下 関 市 長 府 扇 町 2 - 1	☎(0832)48-1111
			FAX(0832)48-1906
北海道販売センター	〒003-0809	札幌市白石区菊水九条2-3-1	☎(011)813-2210
盛 岡 営 業 所	〒020-0122	盛 岡 市 み た け 5 - 1 5 - 5 0	☎(019)641-0811
仙 台 営 業 所	〒980-0012	仙 台 市 青 葉 区 錦 町 1 - 4 - 6	☎(022)264-0311
宇都宮工場・営業部	〒321-3231	宇 都 宮 市 清 原 工 業 団 地 3 0 番	☎(028)667-6111
大 宮 営 業 所	〒330-0038	さいたま市宮原町4-16-30	☎(048)653-8111
東 京 営 業 所	〒187-0032	小 平 市 小 川 町 2 - 1 1 2 8 - 3	☎(042)347-3111
横 浜 営 業 所	〒224-0003	横 浜 市 都 筑 区 中 川 中 央 1 - 3 6 - 2 1	☎(045)912-3111
千 葉 営 業 所	〒261-0001	千 葉 市 美 浜 区 幸 町 2 - 2 4 - 3 2	☎(043)248-4111
名 古 屋 営 業 所	〒465-0095	名 古 屋 市 名 東 区 高 社 1 - 7 2 - 1	☎(052)779-2111
金 沢 営 業 所	〒921-8550	金 沢 市 玉 鉾 4 - 1 7	☎(076)292-3111
滋賀工場・営業部	〒520-2394	滋 賀 県 野 洲 郡 野 洲 町 野 洲 1 4 7 3 - 1	☎(077)588-4111
大 阪 営 業 所	〒564-0053	吹 田 市 江 の 木 町 1 8 - 2 7	☎(06)6338-7111
香 川 営 業 所	〒764-8510	香 川 県 仲 多 度 郡 多 度 津 町 東 港 町 7 - 8	☎(0877)33-2311
岡 山 営 業 所	〒700-0976	岡 山 市 辰 巳 3 - 1 1 1	☎(086)245-1111
広 島 営 業 所	〒732-0811	広 島 市 南 区 段 原 1 - 1 - 1	☎(082)261-5111
福 岡 営 業 所	〒812-0063	福 岡 市 東 区 原 田 4 - 2 - 7	☎(092)629-5111
沖 縄 営 業 所	〒901-2101	浦 添 市 字 西 原 1 7 7 0 - 1	☎(098)877-3111